

授業科目	臨床実習Ⅱ				
担当者	岩田篤（実務経験者）・柳千磨（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	実務経験者2名とも病院等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本実習においてもそれらの知見・経験を基に学生指導にあたる予定。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

学生は、専任教員と共に協力医療機関で臨床実習を行う。臨床実習実施にあたっては、専任教員－臨床実習指導者と綿密に連携し、学生に主体的に取り組んでもらう。

■ 到達目標

1. 臨床実習指導者および専任教員の指導の下、対象者の生活上の問題点を理解することができる。
2. 臨床実習指導者および専任教員の指導のもと、生活上の問題点に関連した動作障害の原因となっている機能障害を理解することができる。

■ 授業計画

実習施設：協力医療機関

実習期間：5日間

実習形態：

協力医療機関において、専任教員と臨床実習指導者の指導／監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像に迫る。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。

専任教員は学生の臨床実習現場を観察し、学生の学習課題などを適切に把握し、臨床実習指導者と綿密に連絡を取りながら適宜必要なフォローを実施する。

また、事前に病院スタッフとのミーティングを行い、学生・対象者・スタッフ相互にとって利益が発生するよう、人員配置や実習の進め方について打ち合わせを行う。

医療施設スタッフ・対象者の利益：

臨床実習指導者に於いても、当連携に参画することにより、その資質向上が得られることを視野に入れている。若手スタッフにとっては、対象者の臨床像をまとめた確に人に伝えるトレーニングになる。加えて、対象者にとっては、学生とコミュニケーションをとることにより、それが良い刺激になり、機能面・精神面の改善、ひいてはQOLの向上に資することとなる。

■ 評価方法

出席、実習内容、デイリーノート及び実習後の報告会の内容、臨床実習指導者の意見（ここまでの70%）、臨床実習Ⅱ後OSCE（30%）の点数を基に、専任教員が総合的に判定する。また、オリエンテーション等への事前連絡なしによる欠席等は減点対象とする。（無断欠席－6点、遅刻・早退－2点、受講中の注意指導－2点）。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

臨床実習Ⅰの課題を再度見返し、健常者同士での検査・測定技術はマスターしておくこと。

また、能力障害と機能障害との関係を理解していくために、運動学および臨床運動学等の知識を整理しておくこと。

■ 教科書

--

■ 参考図書

--

■ 留意事項

臨床現場での学習であるため、事前準備を充分に行い、現場の規則を厳守し、事故がないように努めること。

■ 講義受講にあたって

次の総合臨床実習 I に繋がるように、しっかり経験を積んでください。